

地域貢献と安定した経営向上を目指した農業プラン

日吉津村  徳原貞雄

後継者 徳原隆博

1 はじめに

日吉津村の農業は、専業農家が少なく、兼業農家がほとんどであり、作業の委託は担い手農業者や農業法人に全面委託されていく傾向にあり、耕作放棄地もあります。

我が家はもともと1haの稲作農家で、 が一人で農業に従事してきました。私が 歳の時に が他界し、 も徐々に一人での農作業が困難になってきた為、仕事する傍ら、自分の休日を農作業でこなすようになりました。

 の時、近隣の方から米の乾燥機（20石）を譲り受け、自宅で米の乾燥を始めました。この時期から次々と乾燥の依頼が舞い込むようになってきました。

 で定年、農業を専業とする決心。手始めに籾摺と乾燥作業を基本に所得増大しようと乾燥機を3台（28石、24石、22石）、籾摺機（5インチ）を合わせて増設し、乾燥調整出荷体制を整えました。

また、3条刈コンバインを保有していた為、稲の刈取り作業の依頼も増えていったので、対応できるように4条刈に更新しました。

その後、年々農作業の依頼が増加する一方で農地の全面受託へとその内容も変化してきました。

その結果、今では日吉津村内のみならず、近郊の米子市内まで地域が拡大し、作業量も格段に増加し、自分の土地を含めると自作面積が10ha、稲の刈取り受託が15haで、合計25haとなり、いまだに委託依頼があり、毎年1ha程度が増えていく現状です。

周辺地域の農家の期待から、荒廃地対策の為にも地域貢献したいとの思いで、日吉津村に農業経営改善計画を提出し、平成27年認定農業者として認められました。

今後も農地を積極的に集積し、荒廃地化の防止および地域に貢献したいと考えています。

また、自身の経営を継承していく後継者とし、幸い が29年4月に就農し、現在は親子で経営を行っています。今後、後継者とともにさらなる規模拡大を目指し、効率化・省力化を図りながら、安定的な経営を行っていきたいと思います。また、高齢化等により農家数が減少しており、地域の水田の担い手として農地を守っていきたいと思います。

2 生産・経営の現状

(1) 経営の現状 (平成28年)

○経営面積

作物名	面積
水稲	907a
大豆	71a
白ネギ	5a
その他	30a
合計	1013a

○受託作業面積

作業名	面積
耕耘(3回)	315a
代掻き	150a
田植え	270a
畦塗	1000m
水稲刈取	1500a
乾燥	1095a
籾摺調整	1030a
合計	4360a(*畦塗除く)

(2) 家族等の労働状況 (平成28年)

労働力	続柄	年間従事日数
徳原 貞雄	本人	320日
		60日
		60日
臨時雇用 *	—	6人(120人役)

* 農繁期の季節雇用

(3) 主な所有機械等一覧表

機械名称	台数	導入年	性能・その他	備考
トラクター	1	H25	53ps	
水稲コンバイン	1	H21	4条刈、47ps	
田植機	1	H22	5条植え	
米穀乾燥機	4	H16,H20,H20,H22	20石,22石,24石,28石	
籾摺り機	1	H20	5インチ	
乾燥機用集塵機	1	H28	乾燥機5台用	
色彩選別機	1	H28	5インチ対応	
軽トラック	2	H18・H23		
フレールモア	1	H23	180cm	
スタブルカルチ	1	H27	6連	
ツインモアー	1	H27		
農業倉庫	2	H16,H21	143㎡、72㎡	
低コストハウス	1棟	H28	6m×30m	園芸産地活力増進事業
トレーラー	1	H21	3.5t	

3 現在の課題

(1) 農地集積による規模拡大

- ・本格就農してから8年が経過しますが、現在の規模では農業所得が十分ではなく、農業外所得で補っているのが現状であり、農家として自立できていません。
- ・米価の低迷により収入が減少しています。今後は水稻の他、大豆、白ネギ等の畑作物を拡大していく必要があります。
- ・小区画ほ場（10～20a）が中心で、ほ場が分散しており、通作距離が最大で5km位あります。

(2) 作業の効率化

① 水稻収穫作業の競合

- ・水稻品種については収穫期の労働力分散を考慮して、同じ熟期の品種に集中しないように早生の「ひとめぼれ」、「コシヒカリ」と中生の「きぬむすめ」、「日本晴」を栽培していますが、「きぬむすめ」と「日本晴」の刈取時期が競合してしまいます。
- ・受託作業の「きぬむすめ」、「日本晴」も同様です。ひとたび雨でも降れば作業計画がたたなくなります。
- ・その結果、現有のコンバイン1台では適期刈取が出来ない状況にあり、品質の低下を招いています。

② 水稻育苗コストがかかる

- ・育苗コストを下げるため、水稻プール育苗に取り組んでいますが、人がプールの水を監視しながら注水を行っているため、手がかかっています。
- ・水稻の「密苗」移植栽培に興味を持ち、昨年よりメーカーから専用田植機を借りて、「密苗」移植栽培に取り組みましたが、慣行栽培と同等の収量が確保できたので、手応えを感じています。

③ 耕耘作業の遅延

- ・水稻収穫後の秋耕をスタブルカルチで深耕しますが、現有のトラクターはホイール式の為、ひとたび雨が降ればホイールが土中にはまり込んで牽引力が弱くなり作業計画が立たなくなります。
- ・春の整地耕でもオペレーターはいるのにトラクターが1台では耕耘、草刈（フレールモア）、肥料散布等の同時作業ができないため作業効率が悪く、規模拡大の妨げとなっています。そのため耕耘作業が夜遅くまでかかることもあります。
- ・今後、耕耘作業、代掻き作業等の作業受託も増える事が予想され水稻および転作物について、適期作業を行うためにはもう1台トラクターが必要です。

(3) 水田農業の担い手不足

- ・私の集落でも農業離れが相次ぎ後継者がいません。近年若手が2名就農しましたが、2名とも畑作のみで水稲は耕作しないということです。
- ・若い方を雇用しようと思って、ハローワークで募集しても応募がないため、農繁期に地域から定年退職者（6名）に農作業を手伝ってもらっていますが、今後何十年間継続していくためには、安定的な雇用の確保が急務となっています。なお、現時点では、正規に雇用することは考えていませんが、必要な時が来た時には、農の雇用事業を活用して正規雇用も検討していく必要があります。

4 課題に対する改善目標

(1) 農地集積による規模拡大

- ① 周辺農家から「田んぼを作ってくれんか」と頼まれることが多くなり、毎年1ha程度の増加が見込まれます。担い手育成機構、JA、日吉津村等へ働きかけ、農地中間管理事業を活用し、隣地を借り入れるなど、水稲の規模拡大を図ります。
- ② 作業受託は、耕耘、代掻き、田植え、畔塗、水稲刈取り、乾燥、籾摺調整作業を行っていますが、収益性が良いのでさらに拡大していきます。
- ③ 減反の転作田を利用して白ネギ（秋冬）、大豆の栽培面積の拡大を図ります。
- ④ 小区画ほ場では、地権者の同意が得られれば、水田の畦畔を除き、水田の区画を拡げる取組も考えています。

(2) 作業の効率化

① 水稲収穫作業の分散

- ・水稲の刈取分散や機械効率を考えて、水稲品種の植付け比率を検討し、適期作業を徹底し、収量・品質の向上を図ります。
- ・新たにコンバイン（4条、62ps）を導入し、2台体制で刈取作業を行い、収穫作業の増加に対応します。

コンバイン作業計画

	H28年 実績	H29年 目標	H30年 目標	H31年 目標	H32年 目標	H33年 目標
自作	907a	1008a	1150a	1250a	1370a	1520a
作業受託	1500a	1600a	1700a	1800a	1900a	2000a
合計	2407a	2608a	2850a	3050a	3270a	3520a

② 水稲育苗コストの低減

・プール育苗は、人力による注水から自動注入に切り替えて（フロート等による）省力化を図ります。

・密苗栽培を本格的に導入し、資材（苗床土、苗箱）及び箱剤（農薬）、労働力を慣行栽培の1/2～1/4に削減します。

・密苗栽培を取り入れるにあたり、側条施肥、除草剤同時散布にも対応した田植機（6条）を導入し、2台体制で植え付け作業を行い、田植作業の増加に対応します。

また、肥料費、施肥・除草剤散布労力の削減を図ります。

田植機利用作業計画

	H28年 実績	H29年 目標	H30年 目標	H31年 目標	H32年 目標	H33年 目標
自作	907a	1008a	1150a	1250a	1370a	1520a
作業受託	270a	300a	350a	400a	450a	500a
合計	1177a	1308a	1500a	1650a	1820a	2020a

③ 耕耘作業の遅延

・新たにトラクター（ハーフクローラー式、45ps）を導入し、スタブルカルチ、耕耘、草刈（フレールモア）等の作業受託を行って作業効率を高めます。

・現有トラクターは耕耘、代掻き、肥料散布、草刈、トレーラー牽引等の専用機として活用します。

・トラクター2台体制で同時作業が出来、耕耘等作業の増加に対応します。

トラクター作業計画

作物・作業名		H28年 実績	H29年 目標	H30年 目標	H31年 目標	H32年 目標	H33年 目標
自作	水稲	907a	1008a	1150a	1250a	1370a	1520a
	大豆	71a	69a	60a	70a	100a	100a
	白ネギ	5a	10a	15a	20a	30a	30a
	その他*	30a	34a	20a	20a	10a	10a
	合計	1013a	1121a	1245a	1360a	1510a	1660a
受託作業	耕耘(3回)	315a	400a	600a	700a	750a	800a
	代掻き	150a	300a	350a	400a	450a	500a
	畦塗	1000m	1200m	1300m	1400m	1500m	1600m
	合計 (畦塗除く)	465a	700a	950a	1100a	1200a	1300a

*自作のその他は砂質田へ、ソルゴー、れんげ等の緑肥

(3) 水田農業の担い手確保・育成

- ① 臨時雇用を6名（120人役）から8名（160人役）に増員します。
- ② 雇用を確保しやすい環境を整えるために、平成33年4月を目標に法人の設立を目指します。
- ③ 私()が29年4月より就農しましたので、後継者として育成していきます。

今後の家族等の労働日数

労働力	続柄	H28 実績	H29 目標	H30 目標	H31 目標	H32 目標	H33 目標	備考
徳原貞雄	本人	320	300	260	260	260	260	
		60	80	80	80	80	80	
		60	200	250	250	250	250	
臨時雇用		120	150	160	160	160	160	人役

(4) 地域資源保全会との連携

・地域農家の高齢化や、農業離れによる農地の荒廃化を防ぐため、地域資源保全会と協力して1年に数回草刈り、用排水路の清掃、保全修理といった共同作業を担います。

5 今後の経営目標

① 生産計画

	作物名	H28年 実績	H29年 目標	H30年 目標	H31年 目標	H32年 目標	H33年 目標
水稲	ひとめぼれ	183a	155a	150a	200a	200a	250a
	コシヒカリ	60a	120a	150a	200a	200a	250a
	きぬむすめ	168a	473a	400a	450a	470a	520a
	飼料用米	496a	260a	450a	400a	500a	500a
	水稲計	907a	1008a	1150a	1250a	1370a	1520a
転作	大豆	71a	69a	60a	70a	100a	100a
	白ネギ	5a	10a	15a	20a	30a	30a
	その他 *	30a	34a	20a	20a	10a	10a
	転作計	106a	113a	95a	110a	140a	140a
生産面積合計		1013a	1121a	1245a	1360a	1510a	1660a

② 作業受託計画

作業名	H 28 年 実績	H29 年 目標	H 30 年 目標	H 31 年 目標	H32 年 目標	H33 年 目標
耕耘 (3 回)	315a	400a	600a	700a	750a	800a
代掻き	150a	300a	350a	400a	450a	500a
田植え	270a	300a	350a	400a	450a	500a
畔塗	1000m	1200m	1300m	1400m	1500m	1600m
水稲刈取	1500a	1600a	1700a	1800a	1900a	2000a
籾乾燥	1200a	1300a	1350a	1500a	1500a	1700a
籾摺調整	1150a	1250a	1300a	1450a	1450a	1650a
合計 (畔塗は除く)	4585a	5150a	5650a	6250a	6500a	7150a

○プランの目標

プラン実施期間 平成 29～31 年 (3 年間)

目標年度：平成 32 年

① 目標：農地集積による規模拡大

数値目標：現状経営面積 10ha から 15ha への拡大を目指す。

② 目標：水稲の生産拡大

数値目標：現状面積 907a から 13.7ha への拡大を目指す。

③ 目標：白ネギの生産拡大

数値目標：現状面積 5a から 30a への拡大を目指す。

④ 目標：雇用の拡大

数値目標：現状臨時雇用者 120 人役から 160 人役への拡大を目指す。

⑤ 目標：法人の設立

目標：平成 33 年 4 月を目標に法人の設立を目指す。

6 期待される効果

(1) 経営の安定

・自作面積、作業受託を拡大することにより、経営の安定と所得向上が期待できます。

(2) 地域振興作物の振興

・白ネギを生産拡大することにより、産地の維持発展に貢献できます。

(3) 地域貢献

・ 地域資源保全会と連携した保全活動は、農地の荒廃地化防止に貢献できます。

(4) 雇用の拡大

・就労の場の創出は、地域への雇用機会が提供されるなど、雇用拡大につながるうえ、地域の活性化に寄与できます。

7 具体的な事業導入計画

項 目	H29年	H30年	H31年	H32年	H33年	事業主体
農地集積による規模拡大	○	○	○	○	○	本人、機構、村 農業委員会
作業受託の拡大	○	○	○	○	○	本人
水稻コンバインの導入	◎					本人、県、村
水稻プール育苗の改善	○	○	○	○	○	本人
水稻密苗移植栽培の導入	○	○	○	○	○	本人
田植機の導入		◎				本人、県、村
トラクターの導入		◎				本人、県、村
雇用の拡大	○	○	○	○	○	本人
法人設立に向けた話合い	○	○	○	○	設立	本人
後継者の育成	○	○	○	○	○	本人

◎がんばる農家プランにて実施

○本人が主体となって実施

8 支援事業の内容

取り組み内容	事業費 (税抜)	負担額 (千円)		
		県	村	本人
水稻コンバインの導入 (4条、62ps)	8,886	2,962	1,481	4,443
田植機の導入 (6条、側状施肥・除草剤散布機付) トラクターの導入 (ハーフクローラー式、45ps)	10,009	3,000	1,500	5,509
合 計	18,895	5,962	2,981	9,952

(注) 県の単年度補助上限額は個人 3,000 千円